



高島屋とタイアップし、市民に向けておいしい水をPR

case  
07

普及啓発の事例  
秦野市（神奈川県）

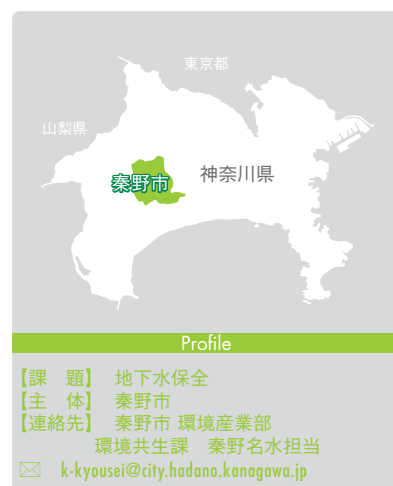
# 名水の魅力を全国ブランドに

自分たちで守り、育み、伝えていく

秦野市の湧水群は環境省の「名水百選」に選ばれています。さらに最近では、環境省が2016年3月に実施した「名水百選」選抜総選挙で「おいしさ」部門1位を受賞しました。ソムリエ田崎真也氏は「やわらか過ぎない軟水なので、味のバラ

**全国一**  
**名水百選総選挙「おいしさ」部門で**

神奈川県中西部、丹沢山塊の南麓に位置する秦野市。ここには、緑豊かな丹沢の山々が育んだ20を超える湧水群があります。  
昔から地下水に恵まれてきた秦野市では、1890年に日本で3番目の近代水道が整備され、給水が開始されました。それ以来、秦野市の地下水は水道水源として、市民に大切にされてきました。





ンスがよくとれている。単体の水として非常においしい水」と秦野の水の魅力を評しています。この水は「おいしい秦野の水―丹沢の雫―」としてペットボトルで販売されていますが、市内では、水道の蛇口をひねるだけでいつでも味わえます。ここではおいしい水とともに暮らす豊かな生活が根付いています。

### 地下水を守り・育み・伝える

今は市民にとって当たり前の存在の秦野の名水も、かつては水源枯渇・水質汚染の危機に見舞われました。危機に際し、秦野市は全国に先駆けて、地下水保全のための条例を制定しました。市が主導して、地下水

の保全管理を強力に推進した結果、現在の名水があります。

秦野市環境共生課の谷課長は「先人たちが、自然任せにするのではなく、守り、育てる努力を怠らずに、創意工夫を重ねてきたおかげで、名水の誉れを維持してきた」と話します。

市民共有の財産として先人たちから受け継いできたこの貴重な地下水を将来に引き継いでいくため、市では名水の魅力を内外へ発信することとに力を入れています。市が展開する活動は、秦野名水フェスティバル、秦野の湧水をめぐる秦野名水さんぽなどのイベント開催や、立体模型に地下水の流れを映し出すプロジェクト、シモンマッピングによる情報発信な



① 弘法大師の伝説が残る「弘法の清水」 ② 環境省「名水百選」選抜総選挙、「おいしさ」部門で1位を受賞した「おいしい秦野の水」 ③ 2017年に行われた「秦野名水フェスティバル」。ソムリエの田崎真也氏も秦野の水を絶賛



「おいしい水」とともに暮らす  
ど、多岐にわたっています。

### どんどん広がる名水ブランド

さらなる広報戦略として市は「秦野名水」のロゴを製作し、2015年に商標登録しました。秦野の水の価値を広めるブランディングの一環として、秦野市内の地下水を水源（原料）とする水を利用した製品、施設、広報媒体などの普及を促進して

おり、現在では、豆腐店や水耕栽培工場等々で利用されるなどの広がりをかせています。「おいしい秦野の水」は、インターネット通販などを通じて全国販売され、秦野名水のブランド価値の向上に一役買っています。2017年10月には名水を肌で感じることでできる公設民営の温浴施設「名水はだの富士見の湯」も加わりました。



④ 秦野名水で作る豆腐店。「秦野名水」ブランドにも登録されている ⑤ 同敷地には個人が製作した親水施設もあり、自由に水をくむことができる ⑥ 秦野市では水道の蛇口をひねればおいしい地下水由来の水を飲むことができる ⑦ 名水を肌で感じることでできる公設民営の「名水はだの富士見の湯」





# 流域マネジメント、ここが「鍵」

## 「鍵」その1 科学の知見に根ざした 地下水保全

秦野市では過去に地下水の量と質に関する二つの危機に見舞われまし

た。一つ目は昭和40年代、急激な水需要の増大により地下水位が低下し、湧水や浅井戸などの枯渇が発生しました。二つ目は平成に入ってから、頃、名水百選の水や水道の水源となる地下水に化学物質による汚染の影

響が出てしまったことです。科学的な調査の結果、秦野盆地の地下構造は、丹沢山地から流れ込む雨水や盆地内の雨水を貯め込む「天然の水がめ」（地下水盆）となっており、一つの器の上に人が住み、みん

なで水を分け合って生活していることが判明しました。自らの地下水揚水の影響は自らに降りかかる一方で、地下水を大切にすれば自らに返ってくるのですが、科学的知見のもと明らかになりました。

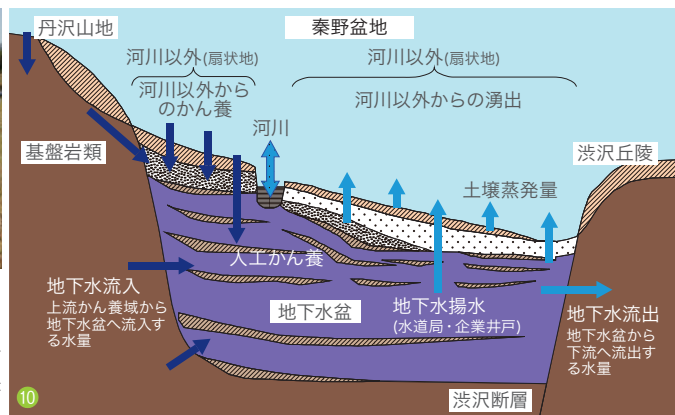
## 「鍵」その2 水の大切さを 地域で共有

地下水の調査を踏まえ、市は地下水が市民共有の財産であるという認識を持つようになりました。

その認識のもと、市は1973年に「秦野市環境保全条例」を施行しました。地下水調査から、秦野の地下水量の保全のためには人工的な地下水かん養が効果的であるという結果が得られたため、水田からの地下水かん養、工場の冷却水を用いた深井戸による地下水注入、雨水浸透ま



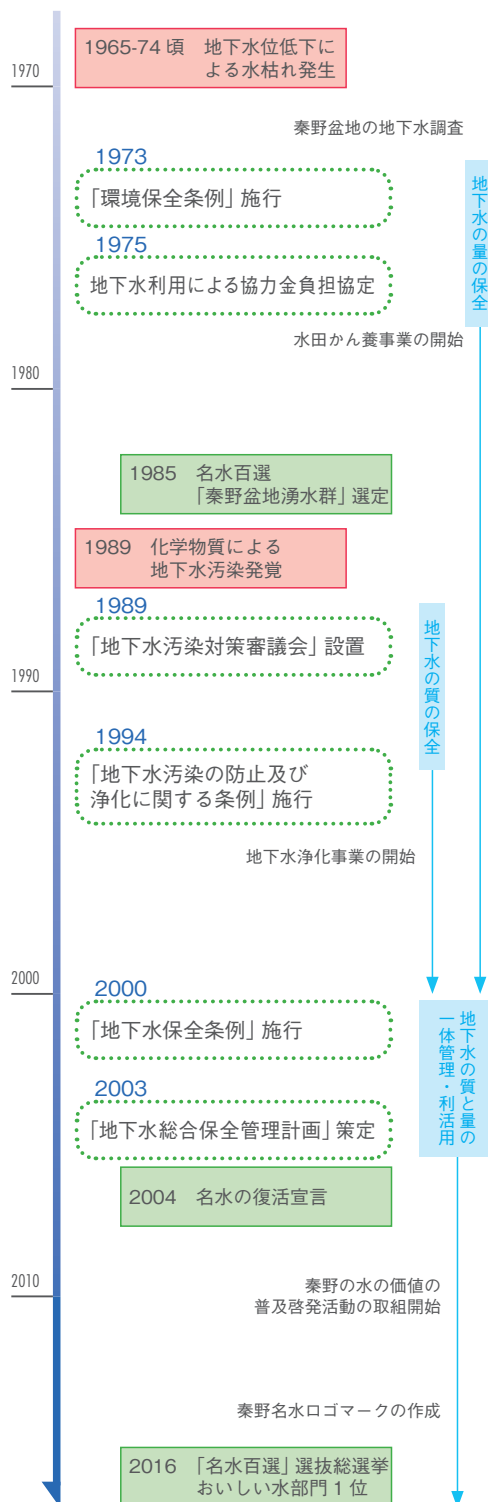
9 秦野市がある秦野盆地は天然の水がめの上に位置する 10 地下水調査によって明らかになった地下水の水収支 11 地下水を育むため、冬季にも田んぼに水を張り水田かん養を行う



12 地下水汚染の浄化目標を達成し、弘法の清水において「名水復活」宣言

## これまでの取組

多くの湧水群を有する秦野市では、地下水を水道の水源に使用するなど、地下水に恵まれた生活が根付いています。しかし、地下水位低下による水枯れや地下水汚染などの危機に見舞われたことから、地下水の質と量の一体管理を進めてきました。現在は、秦野の水の価値の普及啓発を積極的に展開しています。



すを利用したかん養が行われました。さらに、事業実施のための財源として、自己所有の井戸から地下水を揚水している事業者と協定を結び、全国で初めて地下水を利用する事業者に地下水利用協力金を課金しました。水質汚染に対しては、1994年に「地下水汚染の防止及び浄化に関する条例」が施行されました。これは汚染原因者負担を原則とした国内では類を見ない条例で、以降この条例に沿って水質浄化事業を実施した結果、地下水質は大きく改善し、2004年には弘法の清水において「名水の復活」が宣言されました。

現在では、二つの条例が統合されて「秦野市地下水保全条例」となり、地下水の量と質の両面について一元

二度の危機を乗り越切った市は、現在地下水の保全とともに、秦野の水の価値の普及啓発に力を入れていきます。多様な手段を通じてよりたくさんの人に水について知ってもらうことを重視し、市職員自らデパートで「秦野のおいしい水」をPRする活動をはじめ、秦野名水フェスティバル

## 「鍵」その3 積極的PRを市が牽引

的な管理が推進されています。これらの地下水の危機とその対処にあたった取組は、行政、市民、事業者それぞれが地下水をかけがえのない貴重な共有財産として認識するきっかけになりました。

ル、秦野名水さんぽなど市主催のさまざまなイベントを展開しています。また、子ども向けの環境教育として、小学校で秦野の地下水について学ぶ「エコスクール・水のはなし」や、水道施設の見学を実施しています。市職員が制作した秦野の地下水に関する「紙芝居」も、子どもたちが水への理解を深める一助となっています。

最近では「秦野名水」に登録された商品を用いた民間ビジネスの増加が見られたり、商店会連合会、青年会議所による名水にちなんだイベントが行われたりするなど、活動は市役所の外にも広まっています。

先人たちから受け継がれてきた秦野の水は、地域へ、そして次世代へも着実に受け継がれつつあります。



14 フェスティバルで開催された子ども向けの実験教室



13 「秦野名水フェスティバル」でテイスティングする田崎真也氏



# 秦野市の、ここにも「注目」

## 注目1 大学との連携による水循環解析

秦野市では1970年から秦野盆地の地質構造や地下水の水収支について調査しています。近年では、横浜国立大学との共同研究により、長年の調査で培ってきた850本のボーリングデータなどを用いて、地表水および地下水の挙動を立体的に解析する水理地質構造モデルを構築しました。

このモデルは、秦野盆地の地下水理構造をより深く理解するのに役立つだけでなく、水位低下などの問題の発生しやすい場所の把握や、地下

水かん養事業の適地の選定など、組をより効果的に実施するための科学的知見を得ることに活用されています。

## 注目2 地中の水の動きを見える化

地下水挙動解析の結果は、専門家だけでなく、だれにでも理解しやすい形でみることが出来ます。秦野盆地の立体模型に地下水挙動解析結果を投影し、地下水の流れを可視化できるプロジェクションマッピングのシステム「はだの水循環モデル」をつくり、市のイベントなどで展示しています。普段は目に見えない地下

水の流れを3Dの映像で体感できると好評で、地下水の循環の様子をわかりやすく伝えるのに役立っています。

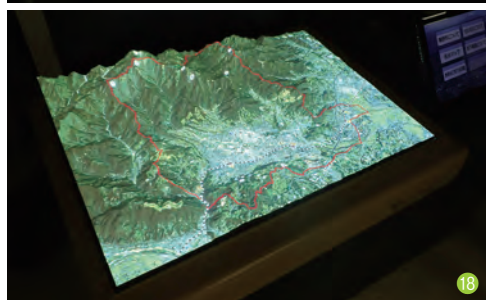
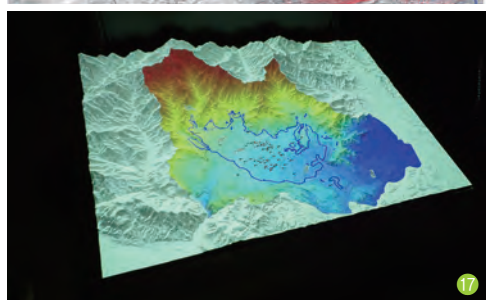
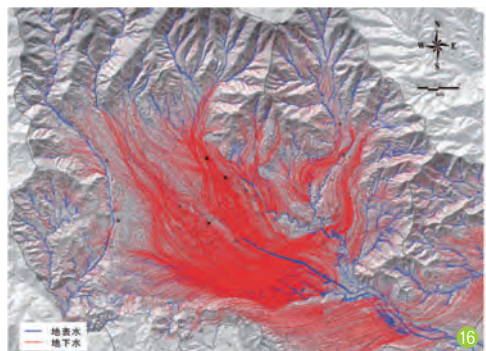
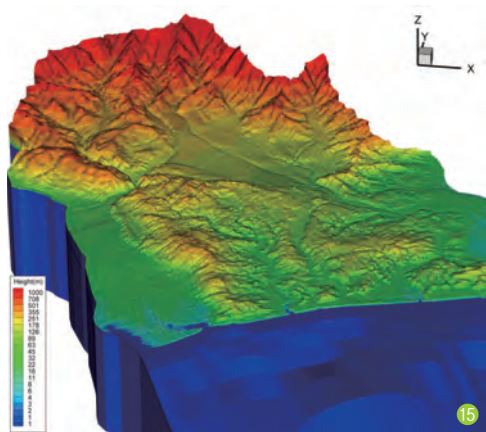
## 注目3 『亀泉池の大騒動』、紙芝居で地域に伝える

湧水の池に暮らすカメ吉が池の水がなくなってしまったことに驚き、物知りフクロウじいさんから地下水について学ぶストーリー。「地下水は専門的で、かつ目に見えないものなので、一般の人たちや子どもたちに親しんでもらい、興味を持ってもらえれば」と話すのは、紙芝居を自身の手で制作した市環境共生課の谷

課長。

可愛らしい手書きのイラストですが、秦野の地下水について長年取り組んできた経験を踏まえ、地下水保全のエッセンスをまとめた内容で、子どもだけでなく大人の人が見ても地下水について学びきっかけとなるよう意図されています。

谷課長は「普及啓発の成果は外からは見えづらいので、どれだけ啓発事業をしているかが大事だと思い、さまざまな普及啓発に努めています」と話します。紙芝居に続き、秦野名水カルタと秦野名水すごろくを作成しました。



15 秦野市の水循環解析モデル 16 地下水流れの解析結果  
17 18 プロジェクションマッピングによる地下水の見える化



19 秦野市環境共生課谷課長手作りの紙芝居「亀泉池の大騒動」

## 活動の成果

### 地下水の水収支が改善

近年の秦野の地下水の水収支は、降水量が少なかった2009年をのぞき黒字収支傾向（地下水のかん養の方が使用量より多い傾向）にあります。



水収支の経年変化

### 「おいしい秦野の水」の知名度と売り上げアップ

おいしい秦野の水の取り扱い店舗

は2019年3月現在で市内外59店を超え、インターネット販売も実施しています。

「名水百選」選抜総選挙でおいしさ部門の全国1位になり、知名度がアップした結果、対前年同月比で販売数が4〜5倍に急増しました。

### 「秦野名水」が新ブランドに

2014年に8件で始まった「秦野名水」ブランドの登録製品等は2019年5月現在、70件となっています。飲食店がメインですが、豆腐店や水耕栽培工場、温浴施設など、幅広く普及しています。

秦野市のブランド農産物「丹沢はだの名水そだち」（現在は「みつもん秦野」に改称）など、名水ブランドの水平展開もみられます。

### 名水をいかした新たな取組をスタート

秦野市商店会連合会による秦野の湧水を舞台とした宝探しリアルゲーム、秦野青年会議所による秦野名水の水鉄砲大会など、秦野の名水を掲げた活動が広く地域で展開されるようになり、市外からも多くの来訪者を集めています。

## Key Person



### 「水への想いを次世代へ」

秦野市環境共生課 課長

谷 芳生 さん

**略歴** 2017年4月1日より現職。長年秦野市の地下水保全政策に携わり、平成16年の名水復活宣言にも立ち会う。近年は地下水保全の普及啓発活動も重視し、自ら秦野の地下水に関する「紙芝居」や「カルタ」を制作するなど、子どもたちへの普及啓発にも力を入れている。



### 地下水保全の取組で心がけていることはありますか？

今の秦野の地下水が維持されているのは、先人たちが1970年の地下水調査以降知恵を絞って努力してきた結果のおかげと思っています。私は2004年の名水復活宣言に立ち会いましたが、地下水汚染発覚以後浄化対策を行ってきた先輩職員たちのアンカーを担っただけで、名水復活は多くの先輩職員たちの努力によるものだと思います。取組にあたっては、過去からの施策を引き継ぎ、今の時代の技術による改良を加え、将来に引き継いでいく、そのことを心にとめています。

### 取組を続けてきた中で一番うれしかったことは何ですか？

一番うれしかったのはやはり「名水百選」選抜総選挙で「おいしさ」部門1位に選ば

れたことです。秦野の水のおいしさの客観的な評価をいただき、市民の関心も以前にも増して高まってきたと感じています。おいしい秦野の水のペットボトルも、市民からどこで売っているのかとよく問い合わせがあるようになり、逆に市民からもっと外へ宣伝していかないといけないと激励を受けるようになりました。

### 今後、地下水に関してどのような事に取り組んでいかれるのですか？

まず、当然水道の水源としての地下水は守っていきます。その上で、せっかくあるのだからその水を利活用できないかと考え、水のイメージを使う、シティプロモーションとして使っていききたいと考えています。将来的には秦野の水を使って市の特産物をつくるのが夢ですね。